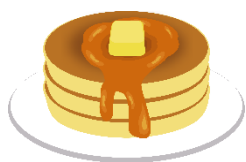


ホットケーキ

ニーちゃんは9才、ヒーちゃんは6才の女の子です。コロナウィルスがはやっているので、長い間学校や幼稚園がお休みでたいくつしています。そこでママがホットケーキを作ってみたらと言いました。二人はホットケーキが大好きですが、作ったことはありませんでした。



ママがボールとホットケーキの粉と卵を用意してくれました。「ホットケーキの粉と水をまぜるのは、むつかしいのでママがしてあげるから、ニーちゃんは卵の担当」といってニーちゃんに卵をわたしました。ママが粉をこねていると、だんだんどろどろになってきて小さなビーズのようなかたまりができました。「だま」というそうです。ニーちゃんは卵をわろうとしましたが、ママが「まだだよ。だまがなくなるまで、こねるんだよ」といいました。まもなく「だま」がなくなったので、ニーちゃんの出番です。

ニーちゃんはボールのはしに卵をぶつけてわりました。すると、たくさんの卵のからが、ボールの中に落ちてしまいました。ぶつける力が強すぎたのです。しかたがありません。なにしろはじめてしたのですから。ニーちゃんはボールの中のからをていねいにとりだしました。横でみていたヒーちゃんもお手伝いしました。つぎは2こ目の卵わりです。こんどはこつこつとしんちょうに少しずつ力を加えていって、うまく割ることができました。ヒーちゃんもやりたいといいだしたのですが、「こんど作るときにおねがいするね」とママがいったので、あきらめました。

準備ができたので、いよいよホットケーキをつくります。ホットプレートに油をひきました。ニーちゃんは大きめのお玉じゃくしを、ヒーちゃんは小さめのをつかって焼き始めました。焼きすぎると黒くなっておいしくありません。焼きかげんがむつかしいのです。ママは何もいわずに二人がすることをじっと見ています。ヒーちゃんは待ちきれなくなって、ひっくりかえそうとしましたが、ニーちゃんは「まだだよ。ぽつぽつと穴ぼこがでてきてからかえすんだよ」と、どこかで教わったのをおぼえていました。まもなく、ぽつぽつがでてきたのでひっくりかえしました。反対側もやきあがりました。お店で買ったものよりちょっと色が黒かったし、形もちょっと変だったのですが、それでも上手にできました。バターとはちみつをたっぷりぬってたべました。2こ目はお玉じゃくしを交換し、ニーちゃんは大きいホットケーキをたべることができてうれしそうでした。

「こんどはパパにも作ってあげようね。」と二人は約束しました。

おしまい